

上越教育大学研究プロジェクト 終了報告書（特別研究・一般研究）

研究代表者 所属・職名 道徳・生徒指導コース

氏 名 稲垣 応顕

研究期間 平成27年度～平成28年度

研究費 1,200,000 円

研究プロジェクトの名称	平成27・28年度 上越教育大学研究プロジェクト 学際型いじめ防止プログラムの開発に関する実践的研究
研究プロジェクトの概要	<p>学校および社会問題として注視される“いじめ問題”について、教科を離れた学校教育活動（学校教育相談・道徳教育・特別活動・キャリア教育）が果たせる役割を体系的・具体的に示すことを目的とする。学校現場で活かせる実践学として、現職教員また教職を目指す学生に“いじめ問題”の予防と対応の視点からエビデンスとリアリティーをもった理論知・実践知を提供する研究であると自負している。</p> <p>メンバーの教員が行う免許更新講習、教員研修会でデータや事例を収集し、授業などを通じ、いじめ予防に有用な手立てと教師の指導行動について調査研究を行った。</p>
成果の概要	<p>教科を離れた学校教育活動の領域として、以下の研究が行われ報告書（別刷）にまとめた。</p> <p>稲垣応顕(研究代表 教授/学校教育相談)：いじめ問題の発生機序と対応の検討</p> <p>林 泰成(教授/道徳教育)：道徳の教科化といじめ防止</p> <p>高橋知己(准教授/特別活動)：いじめ防止のための教員研修カリキュラムの開発試案及び生徒ベースのいじめ認知に関する調査の文責</p> <p>山田智之(准教授/キャリア教育)：差別意識がいじめに与える影響</p>
研究成果の発表状況	『いじめを生まない学級づくりにおける教師の指導行動に関する学際的研究—予防と対応に着目して—』の報告書を作成した。この研究成果は、メンバーである教員における今後の授業で活用するほか、鳴門・上越・福岡・宮城の各教育大学が連携して行っている『B-Pプロジェクト』にも反映させて報告書に盛り込んでいく加えて、学会発表も行う予定である。